令和5年度博士学生支援プログラムシンポジウム
開催報告

大学院教育支援機構　PhDリクルート室

開催日：2024年3月14日（木）14:00~17:30

開催場所：新潟大学中央図書館ライブラリーホール（一部オンライン）

参加人数：135 内訳：

学生	99名
教職員	26名
産業界他	10名

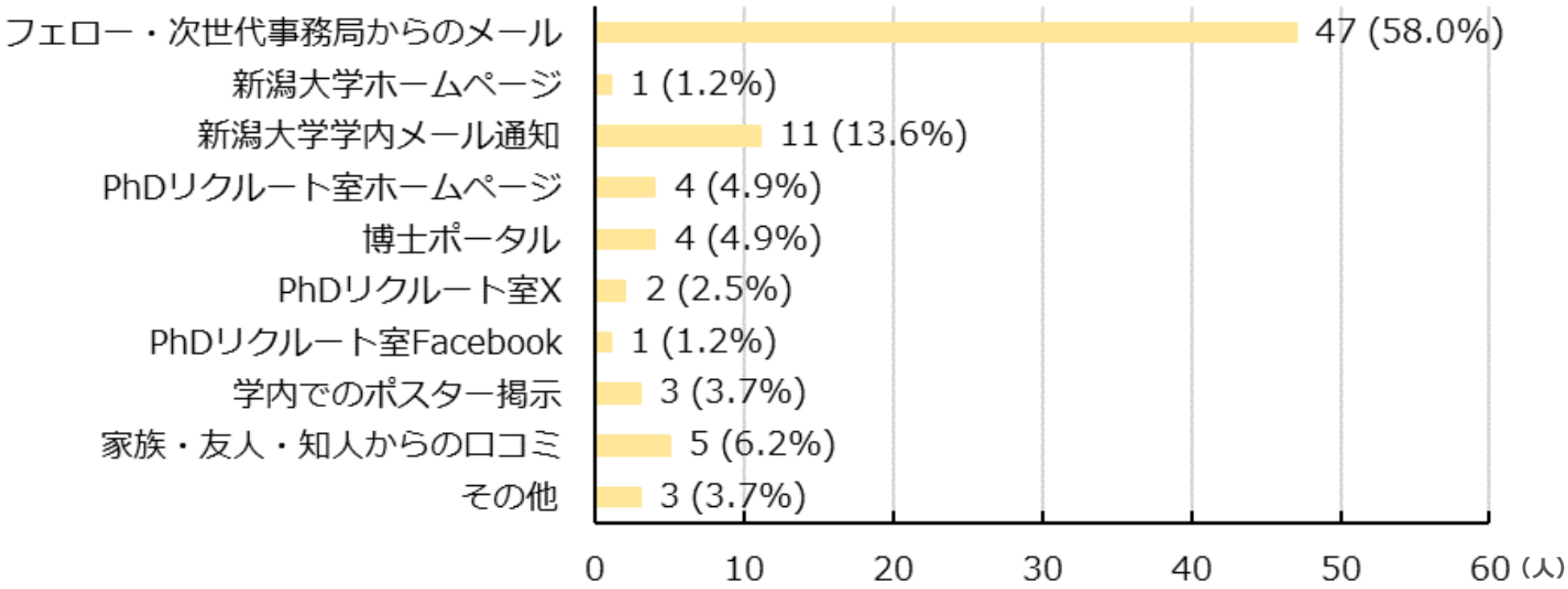
参加方法：

対面	109名
オンライン	26名

回答者数：61名（参加者135名）

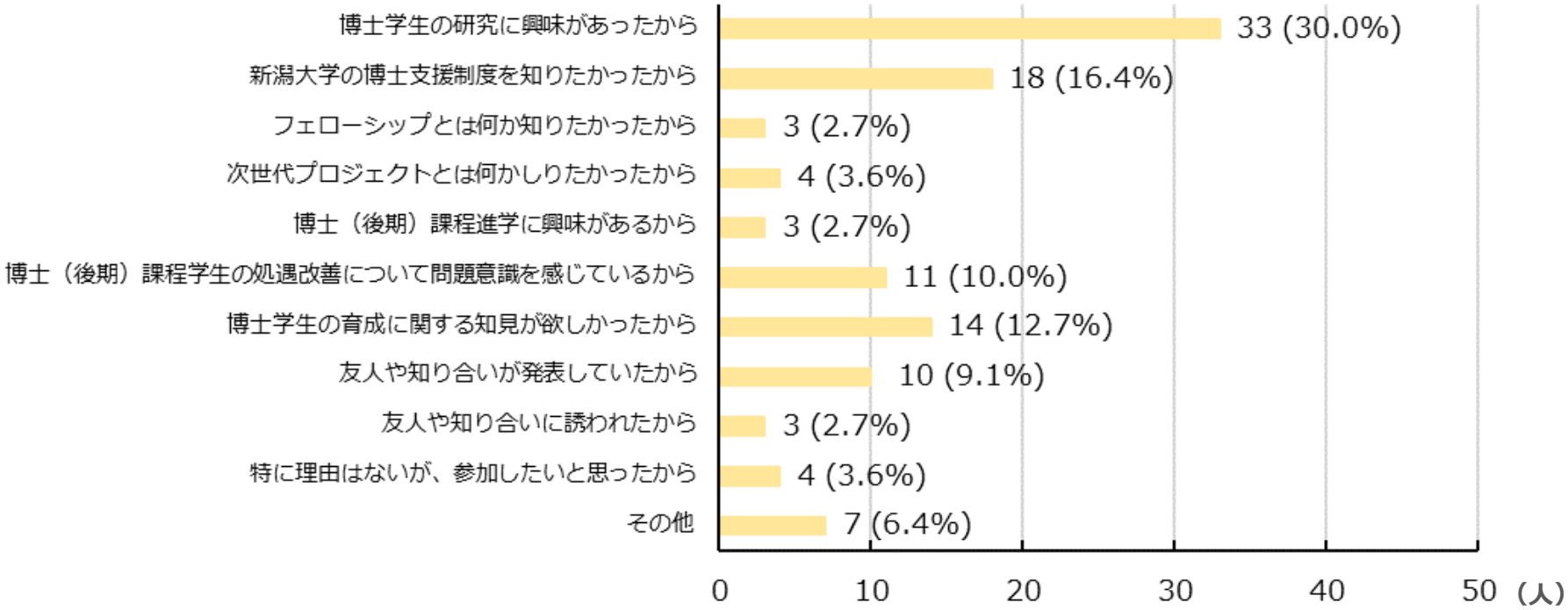
1．シンポジウムをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）

61件の回答



2．シンポジウムに参加された理由をお聞かせください。（複数回答可）

61件の回答



「その他」

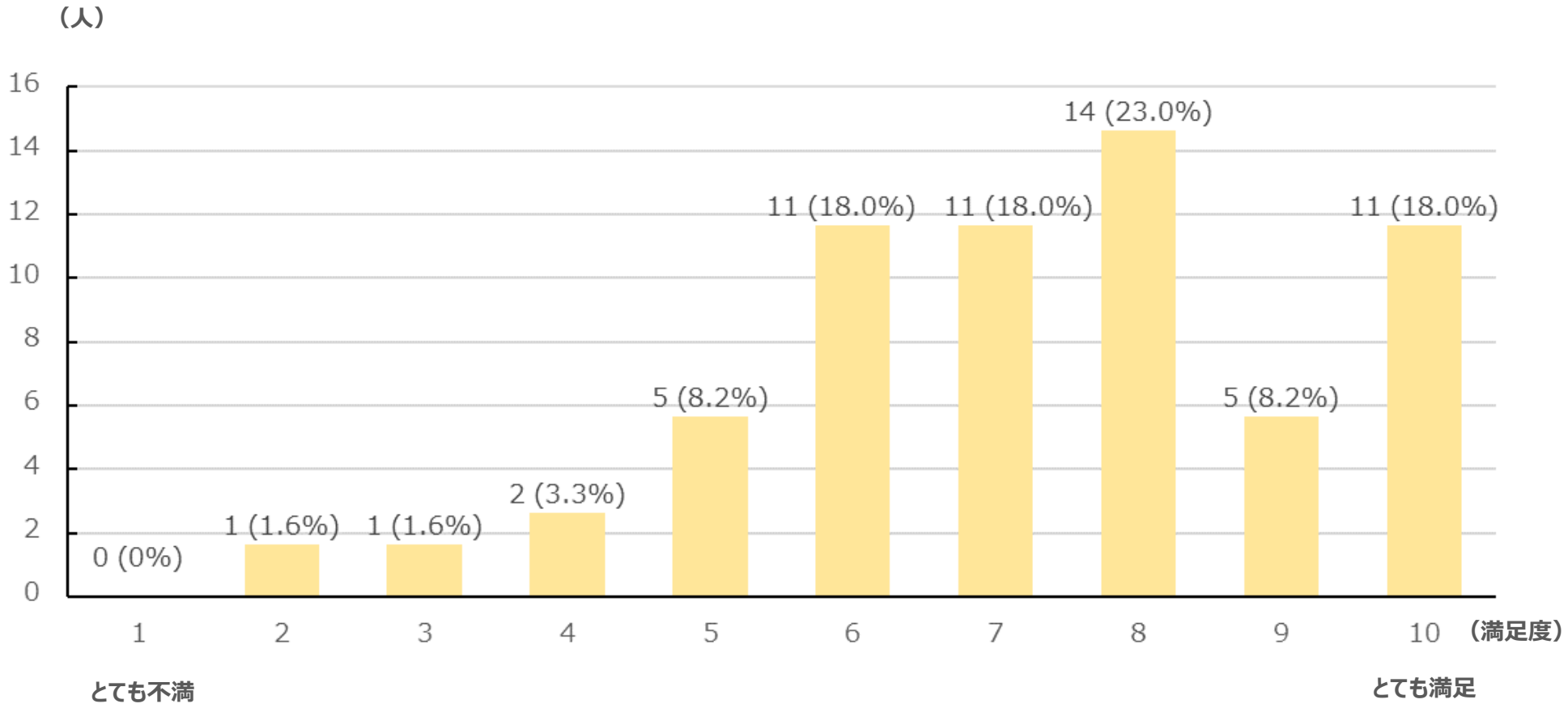
・パネルディスカッションへの参加（3名）

・講師をさせていただく上で、貴校の取組を知っておきたかったから。

・外部委員会委員として。先生方、企業の方、学生との情報交換。

3．シンポジウムの満足度を教えてください。（複数回答可）

61件の回答



3で答えた理由をお聞かせください。（一部抜粋）

10：新事業の概要をお聞きできたので、よかった。
10：Very great. Can enrich other professional knowledge and insights.
10：企業の方からのお話を直に聞けたから。
10：It was very encouraging to listen to advice from company as well as fellow PhD students when they shared their various experiences and also to deepen my understanding of the fellowship support program that I am under. It was also a wonderful experience for me because I got the chance to win the best poster award I am so grateful.
10：他の学生の意見や企業の方の考え方を聞くことができたため。
9：シンポジウムでは他の参加者との交流の機会が十分に設けられており、意見交換やネットワーキングが活発に行われたことが満足度の高さにつながりました。
9：新潟大学における博士学生の支援プログラムの現状を知ることができて良かったから。
8：支援を受けている学生さんの感じていることが聞けて新鮮だった。
8：バネルディスカションにて、忌憚の無い意見が出ていたことが良かったと思います。パネラーの方も発言されていたが、パネラー同士の意見交換の時間が取れたらよかったと思いました。
8：学生の方々のポスターが12月のイベント時より内容豊富になっていて楽しく拝見いたしました。また、学生の方々の率直な意見、企業の方々の見解等、参考になるものも多かったです。
8：博士課程の学生がどの様な考えを持っているのか理解できた。また、企業の方々のご意見とのギャップが大変勉強になった。
8：リクルートフォーラムで知り合った同級生や、YDSC開催にあたって助言をいただいた先輩とも直接会って話すことができたため。

8：学生代表の考えを知りました。
8：パネリストの意見は、採択者の多くの意見を代弁しているものだと感じられた。パネリスト同士の意見交換が、一昨年・昨年に比べてやや少なかったように思った。
8：とても満足できました。ポスターも受賞の有無に関係なく良いと感じるものが多く参考にもなりました
8：私自身、大学院生同士の交流が医歯学総合研究科、とくに歯学部のみに限られていましたので、このような機会をいただき、五十嵐キャンパスの大学院生がどのように研究にとりくまれているか、どのようにキャリアを考えているか学ぶ貴重な経験となりました。 大学院生同士の交流にとどまらず、企業やプログラム担当の先生方などのお話を伺い、大学院生に求められる姿勢を再確認する機会となりました。 時間の制約上仕方のない部分ではありますが、より多くのポスター発表を聞きたいと思いました。発表が自分と同時間のものは聞くことが難しかったので、1グループあたりの時間が短縮しても、2グループ以上に分けるとより聴講の機会が増えるかと感じました。
8：普段はあまり機会のない、他分野の研究発表を聞くことができたから。また、シンポジウムにて同様の支援を受けている方々が、どのようなことを考えているのか知ることができたから。企業の方々の私たち博士学生に求めることを知り、今後の自分のあり方を再確認することができた。
8：全体的に満足したが、パネルディスカッションが時間の制約もあり、ディスカッションというよりは個人の意見を発表する場のように感じたため。
7：支援制度の実情を、実際の学生から聞けて良かった。
7：金銭面での支援の実情を知れたから。
7：博士後期課程への支援制度が理解できて、研究へのモチベーションが高くなったから
7：自分の発表の練習になったから。
7：最初にしていただいたプレゼンがすごくよかった。
7：学生の意見交換(交流の場)が多く設けられるなど、学生のためになるよう昨年のシンポジウムからさらに工夫していただいていた。
7：オンラインでも参加することができて、気軽に参加できたから。

7：ポスター発表の時間が少し短く、前半後半合わせて２～３名の発表を聞くのが限界であった。また、ポスター発表の前半後半それぞれの中でも、聴講者を入れ替える時間の目安があると、より多くの発表者の発表を拝聴できると感じた。 また、パネルディスカッションの時間は、もう少しパネリストの学生が発言する時間、パネリストの学生どうしが議論する時間の割合が多いとより良かったと感じた。
7：良かった点；パネルディスカッションで登壇した学生が、普段考えていることを代弁してくれていたと感じた（特に示し合わせたわけではない）。 改善してほしい点としては、ポスター発表やパネルディスカッションの時間をもう少し長くできるとよかったと思う。
6：パネルディスカッションに参加したフェローシップ生と次世代生の割合に偏りがあり、話題もフェローシップに関するものも多かったため。ただ、内容として学べたこともあったので満足でした。
6：他分野の博士学生と関わり、意見交換ができたことにとても満足しています。パネルディスカッションのときに、会場の皆も巻き込んだ議論ができたほうが有意義かなと思いました。
6：有意義な時間を過ごすことができた。一方でポスター発表に関して、専門外の内容についてはわからないことが多く、質問する時間も限られていたことから結局よくわからないまま終わってしまった。他専門分野の博士学生同士が知見を深める数少ない体験の時間をもう少し増やしてほしかった。
6：多くの博士学生のポスター発表が聴けたから。
6：学生（被支援者）側と企業様（支援者）側の意識や期待を垣間見ることができ、参加した意味はあったから
6：パネルディスカッションで学生が話す時間が少なかった
6：全体的には博士課程に進学している方々がさまざまな制度を利用しながら日々高い意識で研究に取り組まれていることがよくわかったが、内容として修士や学部の学生には関係ないように思える部分も多かったのでこの評価とした。
5：シンポジウムに求めていることを私自身が理解しきれていないことが悪いのですが、本会が「誰のために何を提供する会」なのかということが今一つ分かっておらず、上記のような評価とさせて頂きました。
5：パネルディスカッションで十分な議論をできなかったから

5：ポスター発表はほかの支援生の現状を知ることができて非常に興味深かったです。 フリートーク？の時間は、発表者の支援生が現制度への不満をぶつけるだけで、それに対する回答が無いように思えました。
5：ポスターセッションで他の博士学生の研究内容を聞けたことは良かった。一方でポスター発表中、移動がしにくかった。壁側のみの展示にするか、ポスター発表者を偶数・奇数で分けるのではなく人社棟側・西大通り側などでわけるなど、移動しやすいような検討をしていただきたい。 パネルディスカッションは「ディスカッション」になっていないように感じ、残念だった。トークテーマが発散しやすいものであり、パネラーが多かったためにディスカッションになりにくかったように感じる。その上、来賓にもコメントを求めていたため、さらに内容が発散してし待ったように感じる。 そのためディスカッションではなく、それぞれの主義主張をただ聞くだけの時間となって残念だった。 支援を受けている学生から意見を吸い上げつつ支援制度を改善するための議論をする時間にするのか、企業の方や教員など先輩研究者からのアドバイスを受ける時間にするのか、内容をより絞った企画にしていただけると幸いです。
4：理由を提示されていたかわかりませんが、パネラーの方々に偏りを感じました。次世代の方がせめてもう一人いたらと思いました。 時間が足りない、これに尽きるかと思いますがパネルディスカッションが議論になっていなかったように感じました。自分の考えを述べて終わり、が多かったように思います。 これだけ多くの博士学生が集う会も少ないため、ポスター発表を通じて交友を広げることができたのはとてもありがたいと思います。
4：ポスターセッションの時間が短く感じたため。
3：産業界からのメッセージについて 全体的には、修士学生へのアドバイスとあまり変わらない。産業界からみた、博士学生に求める力や、博士号をもっている今回の講師が、博士号をとったことでためになったこと、活きた力など、博士ならではの部分をより明確に話してほしかった。また、多くの博士学生は、単に学位がほしいわけではなく、やりたい研究、突き詰めたい分野がある。 パネルディスカッションについて 「義務ではなく権利」に強く同意した。教員と学生の目線を一緒にする意識が教員にはあるのか？大学側から確定申告に関する知識補助がないことに驚いた。対話による議論がなされていなかった。もっと学生の声が聞きたかった。学生は、企業側が思っている以上に既に色々なことに挑戦し成果を出している。
2：最大の理由はパネルディスカッションでディスカッションが行われていなかった点である。また、同プログラム後半では、議論(行われていなかったが)の目的も不明確であり、非常に良くなかったと思う。

4. その他、本事業へのご要望（博士人材へ期待すること、新規プログラムや企画の実施など）を教えてください。

Next time please include an English translation to be listened to via zoom even whilst attending in person at the venue like it was during the symposium in 2022/03.
企業の皆様との接点を増やし、ビジネスの視点を磨いて欲しい。
博士学生の様々なニーズや成熟度に応じた教育は難しそうですね。今日の話の中にヒントを感じたのですが、学生同士の横のつながりをもっと繋げるのは有用かもしれないと思いました。
素晴らしい専門知識や特性を活かしつつ、企業や社会から求められる人材に成長して欲しい。
次世代のマルチラボは良い取り組みだと思いますが、もっと新潟大学全体の発展を考えると、博士の研究をもっと大学内外に知ってもらい、野球のドラフトみたいな事も起きればと思います。学生だけの考えでマルチラボをするのも必要ですが、学生より遥かに知識やアイデアを持つ研究者たちの方が、より現実的かつ最適な研究を提案しやすく、斬新な研究の誕生につながる気がします。 従来の学生主体のマルチラボと先輩研究者からの共同研究の提案から始まる研究があると良いかと思います。
医歯学系（少なくとも歯学系）の博士は、病院や保健所で歯科医師として働き給料を受け取った上で、フェローシップや次世代の生活費と研究費もいただいて、研究活動を行っている。これらの制度に採択されている医歯学系以外の博士の日々のスケジュールに興味がある。研究漬けの毎日なのか、学部学生教育をしているのか、など。また、採択されていない博士、あるいはこういった制度がなかった時代の博士は、生活費はどのように賄うのか、よくわからない。
私が知らないだけかもしれませんが、事業に対して意見できる場（投書箱のような設置型も含む）がもう少し多いと、支援生が感じている現状を運営の方々に伝えやすくなると思います。
パネルディスカッションでも言及されていた、生活費ではない年間20万円の研究支援金の拡充が実現されたら嬉しいと感じた。
博士学生同士の交流が少ないため、もう少しそのような場を作ってほしい。

学生が、自分たちに求められていることは何かをよく理解し、求められてるものと合致した、自身が達成すべき目標設定ができるように、目指すべき方向性に関する説明を十分に行ってほしい。大学の目指す方向性と合致した目標を各々が設定し、その達成を目指すことでモチベーションの向上、人材としてのさらなる成長が期待できると考えている。
今回だけではなく、博士からでた提案や要望を受けて、どのようなアクションを起こしたか、フィードバックが欲しいと考えています。もし、何らかの事情で対応できなくても、その理由も知ることができれば、学生もある程度理解してくれるものと思います。
事前に次世代生とフェロー生にアンケートをとり、注目度の高いトピックをあらかじめ用意しておいたうえで、司会の先生がパネリストたちへ質問を投げかけ、話を膨らましていくようなディスカッションができたほうが面白いのではないかと思いました。
日本全体での人材育成、特に大学・大学院の高等教育における人材育成については、産学連携で共通のゴールを据えて推進すべきだと感じています。本シンポジウムに限らず、より一層の産学連携の推進をぜひお願い致します。
もっと学生のことを考えた支援制度を目指してください。学生の意見や事業の改善案を国に伝えてください。
博士人材育成関連のイベントでは、「学」よりも「産」の方が上位であるような空気感が醸成されていることが非常によくないと思う。